

和合

No.132
2020. 1. 1

題字：三浦修次



主な掲載記事

和合探訪2
はやぐおつきぐなれの〜！3
よつぱこ通信4
わたしが描く和合の里5
わたしから見た和合の里5

畑にこんにちは6
季節の郷土料理6
人生100年時代7
わごう駐在所7
和合の里INFORMATION.....8

和合探訪

和合のルーツ
ここにあり！

京島編

◆参考資料

『余目町史』 余目町 発行

『十六合史』

十六合地区総合振興協議会 発行

『京島部落のあゆみ』

京島部落会 発行

村のはじまり

京島は、はじめ中嶋村と称しました。元和2年（1616年）の開発で、北楯大堰の幹線である三ヶ沢方面堰が開通すると、中嶋村の開発者たちは狩川南端の馬場の端に水門を設けて、それより西方へ分水溝を掘り、用水路にしたと記録があります。この中嶋堰の開削により、各々開墾した田に水を流して耕作を始め、村立となったと考えられています。

明治9年（1876年）3月20日に京島村と改称を願い出ましたが、同年4月17日には、現在の京島と改められ現在に至ります。

村高は開村から8年後の寛永元年（1624年）の記録で98石3斗6升5合（14,754Kg）でしたが、天保3年（1646年）の郷帳によれば335石8斗8升7合（50,383Kg）と収量が約3.5倍に増えています。この後天保年間にもう一度村高を記録した郷帳がありますが、これ以上は増えなかったようです。

大みそかに響く子ども達の声 “いっとごしょ”



京島では毎年12月31日の夜に子ども達が「いっとごしょ」と大声で唱えながら、山神社のご神体を背負って各家々をまわり、子どもの健康と豊作、家内安全を祈願し、初穂料をもらい歩く伝統行事があります。これに参加できるのは、地元の0歳から数え歳で13歳までの子ども達で、役割も歳の順で決まっています。その年に13歳の者はみな大将になり、その下役として太鼓たたき、太鼓背負い、鉦たたき、赤梵天（白青赤緑黄の五色の御幣を取り付けたもの）、白梵天頭、残りは白梵天持ちとなります。

大将が背負ってきた氏神様（ご神体）の祠堂が玄関のあがりにおろされると、灯明を灯し家族が代わる代わる参拝します。この間子ども達は戸口に立って手に持った梵天を神の意思を表すかのように上下左右に大きく振りながら、大声で「いっとごしょ」を唱え続け、玄関前では太鼓と鉦が三々七拍子のリズムで打ち鳴らされます。大将が祠堂を再び背負って出て行った後に、袋かつぎの少年が初穂料を受け取って袋にしまします。こうして全戸を回り終えると神社に戻り祠堂や太鼓などを神社内におさめ、梵天は境内の桂の大木にくくりつけ解散となります。

「いっとごしょ」とは、言い伝えによれば、昔、ある商人が初穂料として米「一斗五升」を寄進したのが起りとも、高貴な落人が京島に流れてきて、その人の住居を「遠島御所」と呼んだからとも言われていますが、資料が焼失しており確かな由来はわかりません。

著名人 PICK UP!!

慶応元年、庄内町（当時は十六合村）京島の農家檜山彌惣右衛門の長男として誕生しました。研究心に富んだ篤農家で、明治30年から変種の発見につとめていましたが、同36年に自分の田の「文六」の中から変わった稲穂を抜き取り、改良を重ね、新品種の「豊国」を創り出しました。

明治44年にはいもち病の被害が庄内地方で激甚を極めました、「豊国」はその被害を免れたため、以降盛んに作られるようになり、大正13年の最盛期には1万3939町歩に植えられ、山形県の三大品種のひとつになりました。

また、「豊国」は分けつが少なく、長棹で節間が長く、漂白がきくため草履表の製造に最もよい品種でした。現在でも寒河江市では「豊国」を使った草履が数少ない職人によってつくられています。



檜山 幸吉

（慶応元年7月23日～
大正13年没）

パパとママにインタビュー

はやぐおっきぐなれの～!

- 1 人を愛し、人に愛され、愛情にあふれた人生を送れますように。
- 2 すべり台や階段を上ったり下りたりすることが好きです。抱っこしてあげようとしても、自分で上り下りしたがりです。
- 3 周りの人がやることをよく見ていて、真似するようになってきました。手でお湯をすくって顔を洗おうとし、びちゃびちゃになって喜んでいきます。



あい
小泉 愛蘭ちゃん

(廻館)

平成 30 年 9 月 29 日生まれ

ひろし
ママ：宏
なつこ
ママ：奈津子



- 4 バナナやみかんは、身と皮の区別がつきません、皮まで食べてしまい取り上げると怒ります。中身だけ渡すようにしようと思いました。
- 5 やりたいと思ったら、やってみよう。挑戦しよう。いつでも応援しているからね。

まほ
原田 茉朋ちゃん

(古関)

平成 29 年 12 月 13 日生まれ

ひろかず
ママ：美幸
みゆき



- 1 かわいらしく清楚で、仲間や友達と仲よく接することができる裏表のない素直な子になるように…。
- 2 パズル。しまじろうのぬいぐるみと一緒に寝ること。
- 3 2階の部屋で昼寝をしていると思ったら階段を1人で下まで下りてきたこと。



- 4 お兄ちゃんと同じおやつをあげたら味を覚えてしまい虫歯になりかけてしまったこと。
- 5 パパ：笑顔がすてきなかわいい女の子になってね。

ママ：素直な気持ちをそのままに…♡
大きくなったら一緒にお菓子作りしようね!



Q1 名前の由来は? Q2 今一番の興味やはまってることは? Q3 最近記憶に残ったエピソードは?

Q4 パパママの失敗談(子育てあるある) Q5 パパママからのメッセージ



余目第四幼稚園

よつばっこ通信

よつばっこなりきり名人！！

もっと、楽しくするために…頭を寄せ合って…

いろいろな遊びの中で、子ども達はなりきって遊ぶのが大好き！忍者になりきって修行をしたり、アイドルになりきって踊ったり、ラーメン屋さんごっこでは、「どうぞ、こちらにお座りください」「大盛ですか？」などなど大人顔負けです。

お店屋さんごっこの中でも、今年はおしゃれ屋さんというお店も登場。髪をかわいらしく結んでくれたり、お化粧品(?)してくれたり、とてもすてきなアクセサリもつけてくれます。きっと、お母さんがお化粧品している姿をなにげなく観察しているのでしょうね。手つきもなかなかのものです。その中で、自分もお店をやりたいと言う年中さんに、年長さんが、髪の結び方を教えたり、店長として、やさしく面倒を見ている場面も見られ、とても成長を感じました。



また、みらくる遊園地という遊び場も、年長さんが試行錯誤しながら作りました。「ここで、車が止まっちゃうね…」「どうしよう…?」「もっと、つなげたら?」「そうだね」と、友達と相談しながら、失敗を繰り返しながら、何日もかけてジェットコースターが完成！他に、わにたたき？太鼓の達人？など、年中児さん達お客さんも、わんさかやってきて「チケットにはんこして下さい」「どうやってやるのー?」「もっとやりたい!」と大繁盛でした。自分たちで頭を寄せ合って考えて、小さいうちに、たくさんの失敗を繰り返しながら、いろいろな経験をしていってほしいなと思っています。



せんせいあのね

◆園外保育でのお弁当の時…

M 児「せんせいー。見てー。私のデザートは高級みかんだよ！」

◆散歩の途中…B 児が得意気に教えてくれました。

B 児「先生、オンブバッタの背中に乗ってるのは、赤ちゃんじゃないんだよ」

先生「へー。そうなのー？」

B 児「背中に乗っているのはね、実は夫なんだよー」

先生「えー。夫なんだー！」びっくり！よく知ってるねー。感心感心 (^^)

余目第四小学校6年生

わたしが描く和合の里

ぼくは、自然がいっぱいで、元気いっぱいな和合の里をつくりたいです。和合の里の人たちがふれ合って、元気いっぱいな和合の里をつくり続けて行き、何十年も自然いっぱい、元気がいっぱいな和合の里を自分たちで思いえがくような和合の里をこれからもつくっていきたいです。



菅原 柊斗
【京島】



梅木 はるか
【廻館】

私は、和合の里がずっと緑が多くて農業がさかんでごみが少ない和合の里になってほしいです。ごみを少なくするために、ごみを拾うボランティアをやってほしいです。そのために、月2回以上ボランティア活動をして、私もいろんなボランティア活動に参加していきたいです。

私は、いじめがなくみんなが笑顔でいられて、動物も大切にしている「和合の里」にしたいです。できるだけボランティアやいろいろな部落行事などに参加していききたいです。そして「和合の里」の伝統を受けついで、四小の校訓の「三愛精神」をわすれないようにやっていききたいです。



上林 愛輝
【大真木】



工藤 絢
【古関】

私は、自然豊かな和合の里にしていきたいと思いました。みんなが笑顔で明るい和合地区にこれからはなっていてほしいです。和合地区の人の絆がもっと深まっていてほしいと思いました。そして、和合の里がよごれないように、ごみ拾いなどいろいろなボランティアをこれからしていきたいです。

わたしから見た和合の里

余目四小にきて今年度で6年目になりました。この和合の里ではじめに感じたことは、豊かな自然と温かい地域の方々に関われて、子どもたちがのびのびと素直に育っているということです。朝から目いっぱい体を動かして遊んでいる子どもたちの姿は、6年前の春も今も変わらないものとなっています。

そして、一輪車や竹馬に毎日のように挑戦して、どんどん上手になっていく子もいます。こういった朝や休み時間の様子からも、日頃から地域で元気に遊びまわり、健やかな体が育っていることを感じます。

また、下校指導で担当の地区の子どもたちと一緒に歩いた時には、地域の方が「おかえり」と声をかけてくださる場面もありました。お家の人だけでなく、地域のみなさんからも温かく見守られ育っているのだなと思い、私も温かい気持ちになったことを覚えています。

普段、保健室で子どもたちと関わっていますが、けがや具合が悪い人を心配して声をかけてくれる子どもたちの様子にも嬉しくなります。地域の方々の温かさがしっかりと子どもたちに伝わり、優しい心の輪が広がっているように思います。

これからも、このすてきな和合の里の子どもたちと関わる時間を大切にしながら、心と体の健やかな成長を後押ししていきたいと思っています。



庄内町立余目第四小学校
養護教諭 三浦 有梨先生

畑にこんにちは！

渡部 十九雄さん

すゑよさん（前田野目）

年の瀬も迫る 12 月。雪まじりの雨の中、お邪魔したのは夫婦二人三脚で頑張っている渡部十九雄さん、すゑよさんのハウスです。



渡部家の斜向かいにあるハウスの中には所狭しと野菜がたくさん！ブロッコリー、チンゲン菜、青菜、春菊、ほうれん草、大根、キャベツにからし菜、ねぎ、ストックなどがありました。それから初めて見たの



がターサイ（左写真）という野菜です。調べてみると中国からきた野菜のひとつで、白菜やチンゲン菜の仲間だそうです。

渡部さんは、平成 5 ～

6 年ごろからハウスを始め、20 余年にわたって育苗後にメロン栽培を行ってきました。現在も夏場は 200 ～ 220 本ものメロンを育てているそうです。

毎年 8 月にはメロン栽培が終わるので、それから秋冬野菜の準備を始めます。メロンをはじめてから土が肥沃になり、それほど肥料は多くあげなくても良く、草も長くなるものは取るけれど、横に這うようなものはそのまま、自然にまかせて育てているとのこと。ただ、野菜に虫がつかないように蝶々だけはまめに捕まえているそうです。

渡部さんの野菜はどれも大きく立派に育っていましたが、そこまでたどり着くには数々の苦勞もあったそうです。技術や知識も手探りで、失敗を重ねて



ようやく現在にたどり着いたとのこと。「夫婦 2 人で一人前、お互いできないことを助け合い、手伝いながらこれからも頑張っていきたい」と仰っていました。

▲笑いと笑顔が絶えない取材でした！感謝感謝…

季節の郷土料理



けのこ汁

◆材 料（7色の野菜）

かぶ……………
芋の茎……………
油揚げ……………
こんにゃく……………
ごぼう……………
人参……………
豆（黒豆の打豆等）……
味噌……………
酒……………
だし……………

適 量

◆下準備

- 1 豆は打豆にして、水に浸しておく。
- 2 芋の茎はぬるま湯に浸しておく。

◆作り方

- 1 材料は適当な大きさに切っておく。
- 2 こんにゃくは、空いりしておく。
- 3 豆はゆでしておく。
- 4 鍋に酒、だし、多めの水を入れ、ごぼう、人参、豆を入れ煮る。
- 5 こんにゃく、油揚げ、芋の茎を加え、ひと煮立ちしたらかぶを加えて煮る。
- 6 やわらかくなったら、味噌を加え、味を整える。

◆ワンポイント

※黒豆を使用する時は、ゆで汁を捨てた方が色よく仕上がる。

【出典】『大和の行事食』から



人生100年時代

～高血圧、動脈硬化を防ぎ、健康寿命を延ばそう!!～

庄内町保健福祉課 保健師 渋谷 麗

近年、健康寿命を延ばすための指標として「血管年齢」の重要性が指摘されてきました。血管年齢とは動脈硬化の進行具合のことです。血管の老化は加齢による影響もありますが、気をつけないといけないのは偏った食事や運動不足、ストレス、たばこといった日々の生活習慣です。血管の老化が進むと、血管はカチカチに硬くなり、弾力性も失われてもろくなっていきます。動脈硬化には自覚症状がありませんが、高血圧をはじめとする様々な病気を引き起こします。

〈血管に負担をかけないために〉

①お酒は適量に

飲酒する前に野菜や海藻、大豆製品など、低カロリーの料理を先に食べる

②ヒートショック現象に注意

冬場浴室や脱衣所をあたためる、お湯の温度は41度以下に設定する、外出時はしっかりと防寒する



〈血管の若返りに向けた実践〉

①無理のない運動で身体を動かして血管をやわらかく

②食事のとり方に気をつけて生活習慣病を予防しよう
減塩、バランスのよい食事、加工食品は控える

③自律神経を整えて若々しい血管をめざす

睡眠をしっかりとる、たばこをやめる、ストレスをためない

問合せ先

健康推進係(立川総合支所) ☎56-2904

運転中の携帯電話使用等の 「ながら運転」厳罰化！

わごう駐在所

庄内警察署
佐藤 正人
(第四学区担当)



道路交通法の一部改正で、令和元年12月1日から運転中の携帯電話等の使用及び画像表示装置の注視の罰則等が次のように引き上げられます。

(1) 運転中に携帯電話等を使用・注視した場合(道路交通法第118条)

	改正前	改正後
罰則	5万円以下の罰金	6ヶ月以下の懲役または10万円以下の罰金
違反点	1点	3点
反則金	大型 7,000円、普通 6,000円 二輪 6,000円、原付 5,000円	大型 25,000円、普通 18,000円 二輪 15,000円、原付 12,000円

(2) 携帯電話使用等の違反行為が原因で事故を起こした場合(道路交通法第117条の4)

	改正前	改正後
罰則	3ヶ月以下の懲役または5万円以下の罰金	1年以下の懲役または30万円以下の罰金
違反点	2点	6点(免許停止)
反則金	大型 12,000円、普通 9,000円 二輪 7,000円、原付 6,000円	即罰則適用(反則金の適用なし)

違反の対象になるのは、スマートフォン、携帯電話だけではなく、タブレットや音楽プレーヤーなど画像を表示できる装置全般で、スピーカー機能での通話や機器を手にとって画面を見ることも違反になります。運転中に使用する機会の多い人は、安全な場所に停止してから使用するか、ハンズフリーのイヤホンなどを使用して通話しましょう。

いきいき百歳体操で心も体も健康に！

毎週月曜日の午前中、古関と西袋ではそれぞれの部落公民館で“いきいき百歳体操”が行われています。

“いきいき百歳体操”とは、高齢者ができる限り要介護状態に陥ることなく、健康でいきいきとした生活を送れるように支援することを目的し開発された体操で、昔懐かしい童謡のメロディーにあわせて、腕や足の曲げ伸ばしを主とした簡単な運動を行い、日常生活で必要とされる動作や、それらに必要な筋力をアップさせるものです。



体操のほかに、古関ではヨガや詐欺予防、薬の正しい飲み方といった様々な講座が開かれ、西袋では口の周りや舌を動かす“かみかみ百歳体操”が行われているのが特色です。

また、終了後にはお茶やお菓子を食べながら歓談する場も設けられており、参加者たちは週1回、仲間と共に体操を通して体はもちろん、心もリフレッシュできる機会を楽しみに参加しているようでした。



笑いは健康の源！和合の里“お笑い劇場”開催

12月7日（土）、ゲストに山形落語愛好協会の噺家3名を招き、和合の里“お笑い劇場”が、余目第四公民館の多目的ホールで開催されました。



演目は「長短」「火焰太鼓」「井戸の茶碗」など、古典落語が披露されましたが、参加者からは「大笑いした。ぜひもう一度聞きたい」「笑いすぎて頬が痛い」などの声が聞かれ、1時間半の公演があっという間に感じるほど笑いの世界に引き込まれました。

第88回 企画展

清河八郎の政治活動を振り返り、片腕として活動を支えた幕臣尊攘派山岡鉄舟にスポットを当て、その人物像を紹介します。

◆期 間

12月20日～令和2年2月16日

◆時 間

午前9時～午後9時

※令和2年1月10日は清掃のため
午後5時～9時

◆休館日

12月29日～令和2年1月3日

【ギャラリートーク】

◇日 時

令和2年1月15日

午後1時30分～

◇講 師

公益財団法人 清河八郎記念館
館長 廣田 幸記 氏



編集後記 スマートフォンからも『和合』が読めます！

ここ10年足らずでスマートフォン（以下スマホ）の普及率は目覚しく、多くの方がスマホをお持ちのことと存じます。しかし、そのスマホから地域情報誌「和合」が読めることはご存知でしょうか？ ぜひ検索サイトから「地域情報誌 和合」で検索してみてください。

余目第四公民館
亀ノ尾の里資料館

1月10日（金）

全館床清掃